

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 中間評価

達成度（評価）	
A	：十分達成できている
B	：おおむね達成できている
C	：やや不十分である
D	：不十分である

学校名	佐賀市立北山東部小学校
1 前年度 評価結果の概要	・全職員で校長のグランドデザインの共通理解を図り、その達成に向けて教育活動を推進することができた。また、児童も東部小3つのスローガン達成に向けて学習に取り組むことができたため、すべての項目で「十分達成」という成果が出た。 ・少人数・複式授業においてＩＣＴ機器を効果的に活用することができたため、児童の主体的な学びに繋げることができた。来年度も複式授業においては「わたり」「ずらし」を組み合わせた学習過程・学習指導法の工夫を継続していく。 ・人権教室（月1回）の充実を図ったり地域行事と連携した教育を推進したりしたことで、児童の豊かな心を育むことができている。今後も、児童が自己肯定感を高め、夢や目標を持って様々な事に挑戦できるような学習環境を整備していきたい。 ・学校行事の内容等について見直しをしたことで、職員一人あたりの時間外勤務時間が昨年度より減少し、教師が児童と向き合う時間の確保ができた。来年度も小さな業務改善を積み重ねながら働き方改革を進めていきたい。 ・令和6年度は山村留学生を迎えることはできなかったが、学校・保護者・地域が一体となり持続可能な取組をすることができた。山村留学においては課題もあるので、今後も地域、保護者、学校で取組の継続・改善の議論を重ねる。

2 学校教育目標	郷土を愛し、心豊かで心身共にたくましく、生き生きと学ぶ東部っ子の育成 ～進んで学習・心と体をきたえて何事にもチャレンジ・自分も友だちも大切に～
----------	--

3 本年度の重点目標	①自分の目標に向け、自分の考えを進んで発信し、主体的に学習する児童の育成 ②生命や健康を大切にし、何事にも前向きに挑戦しながら、心身共にたくましく成長する児童の育成 ③自己や郷土のよさを感じ、相手を思いやり、他者と認め合える児童の育成
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○少人数授業の特性を生かした学習指導法の工夫	○「少人数授業で、自分のめあてをもって進んで学習に取り組むことができた。」と回答した児童82%(14名)以上	A	・少人数授業の特性を生かした学習指導法の工夫 ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ・主体的な学びにつなげるICT機器の効果的な活用	・「自分のめあてをもって進んで学習に取り組むことができてい」児童は100%と目標を大きく上回ることができた。 ・少人数授業の特性を生かした指導法の研究を継続する。また、教員間での情報交換を通してICT活用の機会を増やし、それによる効果を高めていく。	・		・	研究主任 研究副主任		
●心の教育	●◎児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	◎「いつでも・どこでも・だれとでも「みんなが」を考えた行動ができた」と回答した児童82%(14名)以上	A	・年間9回の人権学習の充実を図る。 ・人権学習において「SOSの出し方教育」の実践を取り入れる。	・「いつでも・どこでも・だれとでも「みんなが」を考えた行動ができた」と回答した児童が94%(16名)であった。毎月1回の人権教室実施の成果といえる。後期もいのちの授業等の人権学習の取組を継続していく。	・		・	人権・同和教育学習担当		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「こまったことやいやなことはすぐに相談できている」と回答した児童82%(14名)以上	A	・児童と学級担任との「おはなしタイム」を確保する等、児童が何でも話せる学級経営の充実を図る。 ・スクールカウンセラーを中心とした全員のカウンセリングと心の授業を行う等、教育相談体制の充実を図る。 ・いじめ防止基本方針を周知徹底し、迅速かつ組織的対応の徹底を図る。	・毎月の心のアンケートを実施し、気になる児童と面談することで、いじめの未然防止につなげた。「こまったことやいやなことはすぐに相談できている」と回答した児童94%(16名)。今後も、児童と話す時間を充実させたい。 ・児童の心身の状態を把握するために、スクールカウンセラーが児童全員と個別面談を行っている。	・		・	教育相談担当		
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童82%(14名)以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童82%(14名)以上 ○佐賀や富士町が好きだと回答する児童82%(14名)以上	・学校行事や学級経営の中で、一人一人に出番・役割を与えて承認し、自己肯定感(有)感を高める。 ・授業や学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 ・いじめ防止基本方針を周知徹底し、迅速かつ組織的対応の徹底を図る。	・児童全員が「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した。保護者・教職員も100%が肯定的に捉えている。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は88%であった。100%を目指して、目標や夢を意識する活動を仕組んでいく。 ・佐賀や富士町が好きだと回答する児童は100%であった。地域の特徴を活かした学習活動ができているので、継続していく。	・		・		特別活動担当		
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%(11名)以上	B	・全校剣道を通して、自分の体力づくりに関心を持たせ、基本的生活習慣の大切さを学ばせるとともに、礼節を重んじる態度を身に付けさせる。 ・運動をしやすい環境を整える(昼休みに体育館を開放する等)。	・「授業や遊びなどを通して進んで運動をしている」と回答した児童は100%であるが、授業以外の運動時間は目標の時間より少ない。 ・高学年を中心に体育館や運動場で遊ぶことを全校で呼びかけてく。	・		・	体育主任		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 ○時間外勤務が月平均30時間以内の職員が90%(8人中7人)以上 ○各種行事や運営のあり方、育友会活動との連携のあり方について見直しを行う。	A	・業務改善を推進し、職員研修を計画的・効率的に実施する等、年次休暇を取得しやすい環境を整える。 ・「業務改善・働き方改革」のための議論の場を年間2回設定する。 ・地域行事(勤務時間外)への職員の参加等については、管理職から保護者・地域の方への理解を呼び掛ける。	・夏季休業中は、職員研修の同日開催を実施することで、年次休暇取得可能日を増やした。職員の70%が年次休暇を14日以上取得している。 ・職員の90%(8人中7人)が、時間外勤務月平均30時間以内であった。今後も定時退勤日の取組を進めていく。 ・授業時数確保と業務改善の視点から、土日開催の学校行事を平日開催にしたり地域に移行したりしていくよう保護者に働きかけている。保護者・地域の願いや思いを大切にしながら慎重に進めたい。	・		・	教頭 県費事務職員		
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%(6人中5名)以上	A	・特別支援教育に関する研修会を年間2回実施する。 ・教育相談協議会や支援会議等を開催し、関係者間での情報共有を図る。	・特別支援教育に関する研修会を夏季休業中に実施し、教員の100%(6名)が特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した。 ・支援会議を開催し、児童に必要な支援の在り方や関係機関からの指導・助言について、関係者間で情報共有を図ることができた。	・		・	教頭 特別支援教育担当		
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○特色ある学校作りの推進	○保護者・地域と協働した持続可能な取組としての山村留学の改善・充実	○「やまばと山村留学は、持続可能な取組として改善が進んでいる」と回答した保護者90%以上	A	・年7回の山村留学実行委員会(地域、保護者、学校)で、山村留学のあり方について議論を重ね、家族留学制度の推進や里親の発掘等に取り組む、持続可能な取組となるように改善を推進する。 ・学校からの広報や連絡を幅広く行い、地域人材を確保し活用することで、教育活動の質を高める。	・前期は実行委員会を4回開催し、山村留学生を迎えるための取組について議論を重ねてきた。短期留学では19名の留学生を迎え、北山東部地区の豊かな自然に親しむ活動が実施できた。来年度の長期留学につなげていきたい。 ・山村留学の歴史についての学習では、地域人材を活用することができている。その学びを山村留学短期留学のPR活動に活かすことができた。	・		・	教頭 教務		

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------